



こうふ町 議会だより

町勢
世帯数/1,170世帯
人口/3,847人
(平成17年11月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



“大地にこだます”

日野川子ども太鼓

子供の国保育園児（鳥取花回廊にて）

平成16年度に使ったお金58億8,441万円……………	2 P
決算特別委員会参考意見……………	8 P
いっぱん質問 町政を問う……………	11 P
助役の選任に同意……………	14 P
企業誘致調査特別委員会……………	15 P
私もひと言……………	16 P

歳出総額 58億8441万円認定

一般会計 37億7814万円

前年度対比18%減

特別会計 21億627万円

前年度対比9%減

防災情報センター建設費に

3億65万円

中山間地直接支払制度交付金に

9193万円

平成17年9月定例議会は、20日に招集され会期を10月3日までの14日間として開かれた。

今回の定例会には、平成16年度の一般会計と、14の特別会計の決算を、決算特別委員会で審議検討された。

また町長提出議案34件は慎重審議され、すべて原案通り可決された。

2日目の本会議で空席であった助役の選任を全員一致で同意した。

企業誘致特別委員の第1回の会議が開催され、サントリーの取り組みについて協議が行われた。

一般会計

平成16年度の一般会計

は歳入39億1527万円

歳出37億7814万円の

黒字決算となった。

歳入は県支出金及繰入

金の減額等により、前年

度対比17%減となった。

主な歳入は町税10億8

70万円、地方交付税11

億2207万円、国庫支

出金2億253万円、県

支出金2億5908万円、

繰入金3億1164万円、

繰越金1億2381万円、

町債6億2480万円、

など合計で8億2545

万円の減額となった。

歳出も前年度対比18%

減の大幅な減となる。

費目別歳出は総費7億

6234万円、民生費5

億4166万円、衛生費

3億2374万円、農林

水産業費5億517万円、

土木費3億7386万円、

消防費9322万円、教

育費3億796万円、公

債費7億76万円、諸支出

金2880万円となつて

いる。

特別会計

平成16年度の14特別会

計は、歳入総額24億67

7万円に対し歳出総額21

億627万円で3億50万

円、の黒字決算となった。

しかし前年度繰越金、

2億6717万円を差し

引くと単年度黒字は33

33万円となる。

監査意見

住民参画を主眼とした「官民一体」の町づくりを望む

監査留意事項

要望事項

一、一般会計、特別会計とも収入未済額があり、特に特別会計では増加している。徴収事務に一層の努力を図られると共に、各課間の連携を密にして時効の中断に努められたい。

町づくりを推進するにあたっては、「サントリ」等企業の進出による影響も大きいことから、大局を見通した行政の対応をされたい。

二、行財政改革の一層の推進を図られたい。

三、公共施設の管理運営と効率化を図られたい。

四、休校中の学校の活用に努められたい。

五、職員からの提案制度を確立された
い。

全国的に市町村合併が進む中、単独で町政を維持する本町において、住民が安心、安全で暮らせ、将来展望の持てる「江府町」を築くことが重要な使命である。
少子高齢化は一層進み、現在高齢化率は、36%であります。
このような中、地域の特性を活かした福祉対策、子育て・教育の充実、産業の振興、生活環境の整備、雇用の確保などの政策課題を着実に推進することが求められます。
しかしながら、財政面においては一層厳しい状況が予測されます。
基本理念を「自然とふれあう輝きのまち―江府町―」とした第3次総合計画も17年度が最終年度であります。
今後の行財政につきましては、行政と住民が限られた財源であることを再認識し、目的・目標を明確に持ち財政見直しや住民サービス、負担についての考え方などを示し、住民自治の確立を図る必要があります。
町民と行政が共通の目標をお互いに持ち、役割分担を明確にしながら、住民参画を主眼とした「官民一体」のまちづくりを傾注いただくことを望みます。



江府町文化祭（江府中学校吹奏楽）



木谷沢の秋（大平原）

決算の審議

一般会計

平成十六年度の決算について行われた
主な質疑をあげています

行財政改革は

Q 厳しい財政のなか、中長期の計画を早急に樹立し、抜本的な行財政改革は。
A 地方交付税、国庫補助金の削減、町税（固定資産税等）の歳入減が現実化しており、官民役割分担の中で住民サービスのあり方を含め取組みたい。

せせらぎ公園は

Q せせらぎ公園の管理棟は利用されていないが。
A 庁舎建設等総合的に見直す中で検討したい。

され受委託件数も増えておりですが、年間業務体制を確立し健全経営に努めたい。

堆肥センター運営は

Q 畜産経営の安定的発展と堆肥の品質向上が課題であるが。
A 堆肥の品質改善及び付加価値、価格等検討し利用者の負担に応えるようにしたい。

学校施設対応は

Q 分校が、廃校、休校の現状であるが、活用は。
A 今後充分関係機関、関係者と協議し方向性を出したい。

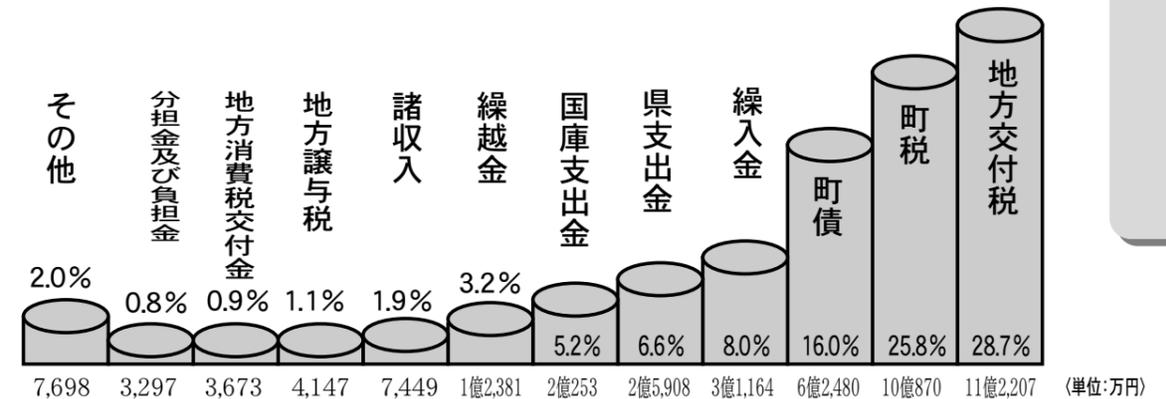
情報通信基盤整備は

Q 高度情報化時代を迎え、通信基盤の整備が急がれるが。
A 町の活性化を図るため、町民ニーズに対応する推進計画を策定し、早期実現したい。

農業公社の運営は

Q 地域農業発展のため、公社の役割は益々重要であるが運営は。
A 農業従事者の高齢化、兼業化、担い手不足等で遊休農地等生産基盤の崩壊が危惧されるため、農業公社が設立

歳入 39億1527万円



個人情報保護は

Q 資格を詐称して戸籍謄本等の交付を受けるといった悪質な事件が全国的に確認されており、本人の知らない身元調査は重大な人権侵害となる、町独自にでも防止対策を早急に実施されたい。
A IT環境の進展に伴って、コンピュータ、ネットワークを使用し多くの個人情報処理され、それらの取扱いの重要性が増大している。個人情報保護の安全対策に万全を期したい。

除雪対応は

Q 除雪委託料も増加しているが、除雪の効率化は。
A 除雪路線、条件等住民の理解と協力を得るよう努力したい。

墓地造成工事費は

Q 町営墓地（御机）の整備した費用は、町営墓地として整備したが、その費用は当該集落の御机の負担です。
A 町営墓地の整備した費用は、町営墓地として整備したが、その費用は当該集落の御机の負担です。

ポランティア育成補助金は

Q 補助金制度が出来ているが、状況は地域が助け合って健康に又、活性化につながるようにとスタートし、24団体を取り組んだ。補助金一団体年間5万円です。
A 補助金制度が出来ているが、状況は地域が助け合って健康に又、活性化につながるようにとスタートし、24団体を取り組んだ。補助金一団体年間5万円です。

町営住宅は

Q 企業誘致、老健施設等人口増が見込まれるが住宅対応は。
A 進出企業等もあり、定住人口増が見込まれ、充分検討して対応したい。

放課後児童クラブ運営は

Q 夏休み中の小学生を対象に、健康で安心・安全に過ごせるように、クラブ運営が実施されているが、その状況は。
A 年々利用者が減少しているが、心身ともに健全な育成のためその要因と対策を検討したい。

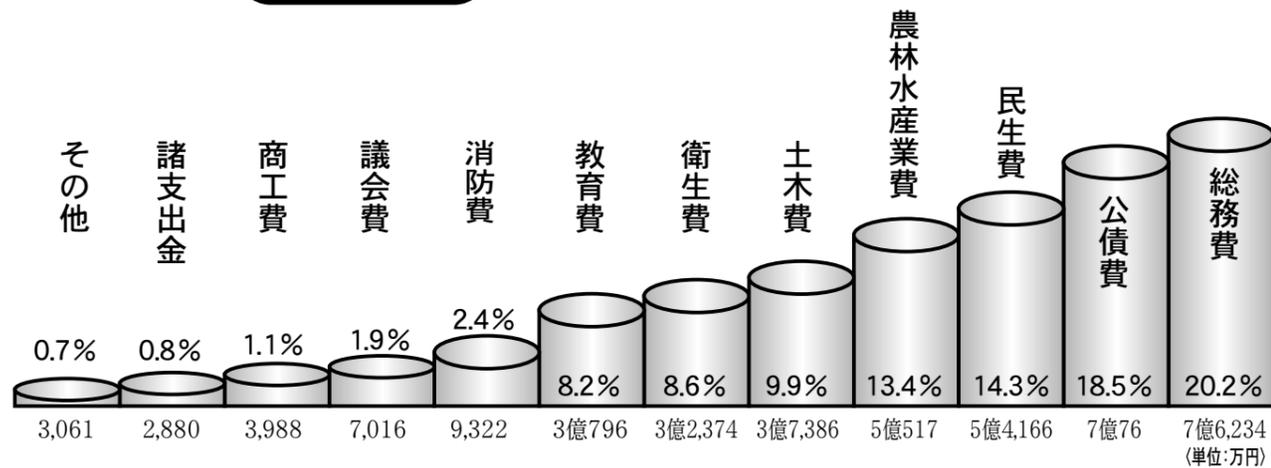
シルバー人材センターは

Q 運営状況は。
A 積極的なPRをし、独立採算となるよう努めたい。



町営住宅（佐川団地）

歳出 37億7814万円



特別会計 (平成16年度)**総額 21億627万円**

・ 西部情報公開	4万円
・ 住宅新築資金等貸付事業	431万円
・ 国民健康保険 (事業勘定)	3億2796万円
・ 国民健康保険 (施設勘定)	1億4493万円
・ 老人保健	6億5199万円
・ 介護保険 (事業勘定)	3億4619万円
・ 笠良原市民農園	899万円
・ 簡易水道事業	1億6445万円
・ 農業集落排水事業	2億1389万円
・ 林業集落排水事業	429万円
・ 特定環境保全公共下水事業	2億2763万円
・ 江尾財産区	27万円
・ 神奈川財産区	685万円
・ 米沢財産区	448万円

特別会計

住宅新築資金は

Q 事業成果と償還状況は。

A 事業については既に終了して現在償還のみですが、滞納に対して徴収に努力します。

県一高い医療費支出は

Q 国の指定を受ける程の医療費支出の対策は。

A 全国平均の2倍以上の入院患者のためですが、検診のすすめと、予防医療に積極的に取り組みます。

診療所の運営は

Q 地域医療の核として経営、運営状況は。

A 昨年に引き続き黒字決算となり、基金の積み立てをして今後に備えます。

国民健康保険料徴収は

Q 国民健康保険料の徴収状況は。

A 県下では徴収率は高いですが、繰り越しの滞納については、特段の努力で取り込む。

今後の農業集落排水は

Q 未整備地区の取り組みは。

A 今年度は吉原集落を整備しているが、残り集落と協議の上、集排か合併浄化槽のいずれかで整備を進めます。



住民検診

市民農園の運営は

Q 一般会計から6百万円の繰入れがあるが今後の運営は。

A 毎年一般会計からの繰入れを考えると、今年中に運営委員会で、指定管理者制度を含めて結論を出します。

簡易水道の取り組みは

Q 簡易水道の今後の取り組みは。

A 完全町営水道に向けて努力はしていますが、運営については料金の改定等念頭において検討しています。



御机地区農業集落排水終末処理場と御机霊園

決算特別委員会

参考意見

一般会計

厳しい財政の中、経費削減に向けた努力がみられるが、平成16年度の経常収支比率は94・1%、地方債残高73億4千万円となり、基金残高は約8億4千万円となりました。17年度は介護老人保健施設建設の大型プロジェクトも動いております。企業誘致対応等諸案件もあり、更に、効果的な運営を頂きたい。

1 行財政対策

国の三位一体改革が叫ばれる中、地方交付税、国庫補助金の削減、町税(固定資産税等)の歳入減が現実化しており、中長期の財政計画を早急に樹立し、補助金等を含めた抜本的な行財政改革を実行し、官民の役割分担の中で町民サービスのあり方を示し、住民自治の

確立を図るよう努力されたい。

2 情報通信 基盤整備

高度情報化時代を迎え、社会が開放・情報の選択へと向かっている。町の活性化を図るため、分野の情報収集・処理・提供の通信基盤の整備が急がれる。町民ニーズに対応する推進計画を策定し、早期実現に向け努力されたい。

3 過疎バス対策

生活バス路線維持のため、年間1千7百万円の経費が必要となっているが、今後小学校統合問題、高齢者の通院及び生活路線の確保等の利便性、効率化を図るため運行形態、運行方法を検討された

4 個人情報保護

資格を詐称して戸籍謄本等の交付を受けるといった悪質な事件が全国的に確認されており、本人の知らない身元調査は重大な人権侵害となる。町独自でも防止対策を早急に実施して頂きたい。また、IT環境の進展に伴って、コンピュータ、ネットワークを活用し多くの個人情報処理され、

5 放課後 児童クラブ

夏休み中の小学生を対象に、健康で安心・安全に過ごせるよう心身ともに健全な育成のため、クラブ運営が実施されているが、年々利用者が減少している。その要因と対策を検討されたい。

6 シルバー 人材センター

自分の希望や経験、能力、技術を生かし、相互に協力し合って労働の機会を確保し、健康を維持しながら地域社会に積極的に参加することを目的としている。高齢者が進み長寿社会を迎える中で、余暇を利用した生きがい対策等の機会提供に努力されたい。



路線バス

7 農業公社

農業従事者の高齢化、兼業化、担い手不足等で遊休農地等生産基盤の崩壊が危惧されるため、農業公社が設立され受委託件数も増えております。地域農業発展のため公社の役割は益々重要であり、年間業務体制を確立し健全経営に努力されたい。

8 堆肥センター

畜産経営の安定的発展と地域の生活環境改善に資することを目的としておりますが、商品としての堆肥作りに努力し、品質改善及び付加価値、価格等検討し利用者の負担に応えるよう努力されたい。

10 除雪対応

町内交通路確保のため鋭意努力いただいておりますが、委託料も増加しており、除雪路線、条件等住民の理解と協力を得て減額されるよう早急に対応されたい。



作業委託



下蚊屋分校

9 学校施設対応

少子化のため地域では、分校が廃校、休校の現状となっているが利活用を含め将来の方向性を検討されたい。



除雪

決算特別委員会参考意見

特別会計

1. 西部町村情報公開・個人情報審査会事務局の取り扱いについて、今後事務局の取り扱いを検討されたい。

2. 住宅新築資金等貸付事業は、完成し現在償還が進んでいるが、未納者については一時立替をしているので完納に努力されたい。

3. 国民健康保険の医療費が本町は大変高く、厚生労働省の指定を受け医療費削減に努力され、生活習慣病等の検診を進めると共に、武地医師と地域のボランティアとの連携を密にして地域が助け合う健康で元気な町づくりを進められたい。

4. 診療所は本町の医療機関として、医科・歯科が連携をとって地域医療の充実を図って、町民の健康増進に努められたい。

5. 老人保健について、本町は高齢化率が高く、高齢者の健康管理に一層努力されたい。

6. 介護保険事業について居宅介護サービス・施

設介護サービス等介護支援が多様化し、制度改正については、充分配慮されたい。

7. 笠原市民農園の運営に関しては、運営委員



福祉保健課



江尾診療所



江府町健康福祉センター



吉原地区農業集落排水工事

会を早急に開催し、今年度中に方向を示されたい。

8. ほとんどの集落で簡易水道が整備されましたが、事業の全町完成を望みます。

水道料について、今後見直しの際は町民の負担を充分考慮し、対応をされたい。

9. 農業集落排水事業は、厳しい財政状況であるが、本町の重点施策であり、

未整備地区の宮市・宮市原・美用・小原・栗尾・杉谷については最良の方策で事業を実施されたい。

10. 公共下水道の接続期限が来ているが、接続を推奨すると共に、滞納者の徴収に努められたい。

一般質問



町づくり ビジョンについて 行財政改革について 日野尾 優

問	地域特異性の掘り起こし
答	自然、資源を活用した町づくりを

質問 我が、江府町名は「河川が合流し府となす」という意味に由来しています。また、自然保護憲章の発祥の地でもありません。これら山紫水明を維持し豊かな恵まれた水資源はもとより環境を守る農林業、水源涵養事業はもちろん水、食、農が連携し、生産・加工・販売そして付加価値産業等を起業して、地域の特異性を掘り起こし夢と希望の持てる町にしたかどうか町長に伺う。

町長答弁 地域の資源の活用並びに江府町が持つております南大山、烏ヶ山の自然景観、資源のPRに努力しており「自然とふれあう輝きの町」をテーマに掲げて、その実現に努力しております。しかし、残念ながら人口の減少、過疎化、少子化というよう大きな課題がありまして、そのような中において、御机地内に氷工場グリーンステージを企業誘致し来春操業に向けて建築が進められているし、また、笠原地内に水を活用した天然水製造のサントリーの誘致企業があり事業展開に向けて進んでおります。水源涵養林などの環境保全を図りながら、気候、気温等自然条件の特異性を活用し町づくりを進めます。

問	改革評価機能は
答	諸会議等で意見聴取し予算に反映する

質問 地方分権時代を迎え、自己決定と自己責任が重要であります。簡素で効果的な行政体系をとることが緊急の課題であり、透明性の向上を図る施策を講じ、政策形成や展開をはかるために、政策評価機能発揮について伺う。

町長答弁 政策評価機能は、国の行政改革の一環として導入されており、集



神戸市魚崎での特産販売

問	改革目標の数値は
答	目標数値を提示する

質問 より簡素で効果的な行財政を実現するため、事務事業、財政、組織、機構、定員等行政全般に

落等、諸会議を通じ住民の意見を聞き予算編成に反映したい。

わたって総点検を実施し、年次別具体的な実計画を策定し、これを公表する必要がある、できる限り目標項目を数値化したかどうか町長に伺う。

町長答弁 まちづくり推進会議、町民会議での相談システムなり、行政内部でも職員みずから改革に取り組んでおります。当面の実施計画、課題等を盛り込んだものを数値に表し提示し、議論を深めてまいります。

一 般 質 問



ゴミの減量 対策について 越嶋 恵美子

問	ゴミの分別状況と対比は
答	町民の一層の努力をいただきたい

質問

ゴミの分別収集が始まってから10年になります。現在10種類に分別されているが、昨年のゴミ排出量は約千トンであり、年間一人当たり250kgになる量が処理されている事になります。

生活の多様化により量も増えていっていると思われるが10年前の対比と分別状況はどうか伺う。

町長答弁

リサイクルの促進を図るため平成9年より分別収集に取り組んでいる。一人当たり248kg(年間)の量であるが今の所

問	ゴミの減量対策は
答	地域説明会を実施

質問

本町は、一年前、単独で頑張ると決定しました。町民一人が一日100g可燃ゴミを減らすと町全体で約一千万円の

県平均より下回っている。分別収集の徹底の成果であると考ええる。しかし、当初と比較すると16年度で177%の増加となっている。一人当たり年間2万円強、町全体で約8千万円の処理費用が必要であり、単独の町づくりを進める上でごみの削減と有効利用を考え、町民の一層の努力を頂きたいと考えている。

町長答弁

削減となります。ちよつとした工夫で大切な税金を有効に活用できるのです。処理費用の現状、実態を町民にも説明し、理解を求めることが望ましいと考えている。

減量対策の今後の取り組みについては、リサイクル減量化は住民の皆さんの理解と協力が大切であり、意見交換、地域説明会を計画していきたいと考えている。江府町の可燃ゴミの大半は紙・布類であり、これを分別出れば、減量化にもつながると考えている。

問	不法投棄・野焼き・農業廃資材の対策は
答	販売業者と話し合いを

質問

後を絶たない不法投棄、野焼きなどの対策について伺う。

農業廃資材の回収が年2回あるが、JAの購入品に限るので、他店の物は処理に困り、人目につかない所で焼いたり、捨てられる事がある。JAと話し合うなど、行政としての対策を伺う。又、分別収集10年目官民一体となってゴミの減量に取り組むべきと考える

が、町民による町内一斉清掃の日を設けてはどうか。

町長答弁

不法投棄は、家電リサイクル法の実施で料金の負担が起因していると考えられる。

本町では巡回監視活動により早期発見、早期撤去。併せ不法投棄は犯罪であるという啓発を強化していきたい。

野焼きは、平成13年4月から法律により原則禁止。農業用資材は購入先も多様化し、処理の徹底も容易ではない状況であるが、JAを始め販売業者との話し合いを進めたいと考えている。

町民による町内一斉清掃の日は、大変参考になる提案だと考える。



分別収集

議員提出議案

地方行政調査特別委員会を設置

一、先進地の長野県大桑村立大桑小学校の統合までの経過と統合後の状況を調査し、本町における学校統合検討に活かす。

二、6月15日にサントリ㈱との工場進出協定が調印されたところであるが、山梨県白州町の工場の概要及び地下水を含む環境保全活動を調査し、江府町のまちづくりに活かす。

総務経済常任委員会教育民生常任委員会

各常任委員会の所管事務調査を平成17年10月4日から11月30日の間に実施

分権時代の新しい地方議会制度の構築を求める意見書が提出され、原案どおり可決し、関係府庁に意見書を提出

平成11年の地方分権一括法の成立により、地方公共団体の自己決定権と自己責任はますます大きくなり、地方議会の権限も飛躍的に拡大した。

地方議会はその最も重要な機能である立法的機能・財政的機能・行政監督機能を充実強化し、今まで以上に行政執行への機能を向上させ、分権時代に期待される議会の役割を果たしていかなければならない。

しかしながら、現行の地方議会制度は、議会の召集権が長にあること、付再議権の行使が長の認定に委ねられていること、「議会を召集する暇がない」を理由に条例や予算が専決処分される例があることなど、二元代表制を採用しながらも、長と議会の機能バランスを欠き、議会本来の機能が発揮されていない。

さらに、議員定数の上限値の規定や一人一常任委員会の就任制限などの

制約の規定は、議会の組織・運営を硬直化し、議会の自主性・自立性を弱め、議会の活性化を阻害している。

よって、国において所要の措置を早急に講じ、分権時代に対応した新たな地方議会制度を構築されるよう、強く要請する。

1. 議員定数の自主選択
2. 議会の機能強化
 - ① 立法的機能の強化
 - ② 財政的機能の強化
 - ③ 行政監督機能の強化
3. 議会と長との関係
 - ① 不信任と解散制度の見直し
 - ② 議会召集権の議長への付与
 - ③ 長の付再議権の見直し
 - ④ 専決処分の要件の見直し

4. 議会の組織と運営の弾力化
 - ① 常任委員会の就任制限の撤廃
 - ② 全員協議会の位置づけ

陳情の結果

件名及び要旨	審査結果
中学校歴史・公民教科書の採択について	趣旨採択
中学校教科書採択に当たって配慮すべきことに関する陳情	趣旨採択
小泉首相の靖国神社参拝中止を求める意見書提出について	不採択
日本国憲法第9条の遵守と米軍駐留経費並びに防衛費削減による地方公共団体の財政改善を要求する意見書提出について	不採択
「国民保護法」「米軍行動円滑化法」など所謂有事関連7法案に関わって自治体の意向尊重と「思想・信条の自由」の保障、非核三原則の反映を要求する意見書提出についての陳情書	趣旨採択
最低年金制度の創設に関する陳情	趣旨採択

助役の選任に 同意した

平成16年9月より欠員となっていた助役に、鳥取県職員の伊藤友昭氏(48才)を選任することに同意した。

伊藤友昭氏
(48才)



伊藤助役の略歴

昭和32年 大山町生まれ
昭和56年 鳥取県入庁
平成7年 総務部財政課
平成17年 農林水産部生産振興課長
より江府町へ
その間昭和59年から平成元年まで
日野農林振興局の農業改良普及員として日野郡で活躍していました。
任期は4年です。

介護老人保健施設・庁舎建設調査 特別委員会

平成17年7月8日

改選後の初議会で報告を受ける。7月5日の県議会で江府町老健施設「あやめ」に対し2375万円の交付金が決定。

8月19日

臨時会で「あやめ」新築工事の請負契約の締結を議決。

内訳

方法 12共同企業体の指名競争入札

金額 8億850万円

業者 五洋・オーク共同

企業体

同日 介護老人保健施設・庁舎建設調査特別委員会を設置し、委員長に川端雄勇議員、副委員長に川上富夫議員を互選した。

8月30日

「あやめ」新築工事の安全祈願祭

9月20日

特別委員会では今後の行程表の報告と職員募集については地元採用を強く要望した。

9月21日

臨時会で日野病院組合規約の変更を決める。

内容は「あやめ」の赤字補填について各町の負担は、

江府町 90%

日野町 10%とした。

10月13日

臨時会で「あやめ」の管理運営を日野病院組合に指定管理者として指定する。期間は平成18年4月1日から平成23年3月31日までの5力年間。



建設中の介護老人保健施設（武庫）

企業誘致調査特別委員会

平成17年8月19日の臨時会で特別委員会を設置し、委員長に池田成弘議員、副委員長に日野尾優議員を互選した。

平成17年9月28日

第1回企業誘致調査特別委員会開催

町長の経過説明のなか、サントリー株式会社、鳥取県、江府町、の三者協定書の提示があった。

また、サントリー株式会社、工場進出プロジェクトチーム代表者が江府町及び地域関係者の協力に対し感謝を述べる。

会社の企業理念は、自然と共生し、水の営みを大切にし、水とともに生き、環境保全に積極的に取り組み、環境に調和した地球にやさしい工場を目指す。

今江府町の取り組みは

農村地域工業等導入実施計画を国に申請中です。併せて農業振興地区除外申請も協議中であり、また地権者と最終調整もしています。

国県の許可が認定になれば、農地転用の申請も行っていく。

基本計画の最終は

水量、水質、環境調査終了後、平成18年春には基本計画を終了し早い時期に着工する。

水量水質調査結果は

第一段階のボーリング調査、終了結果は、水量は十分あり、水質も良好です。

今後は更に試掘し、地下水の量、水の流れの方向、取り水のための環境調査を実施、地質学専門の大学の先生と協議しながら最終的に決定する。試験結果は、町民会議にも提出する。

サントリーの地域における将来展望は

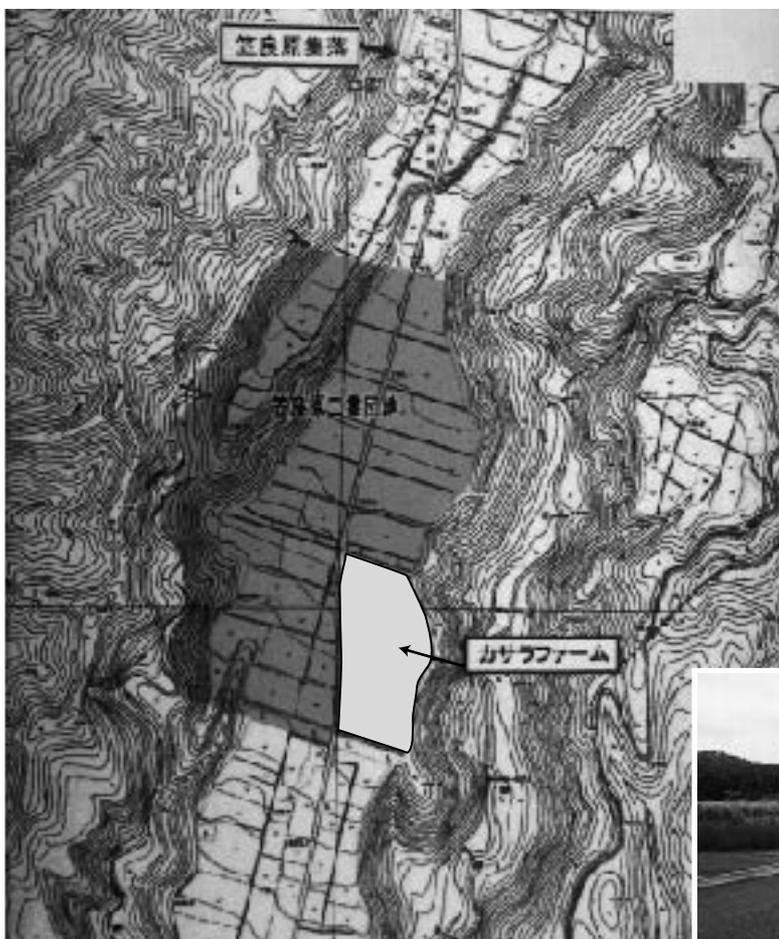
自然を大切にす森林を整備し、美しく清らかな水を守り、鳥の生息等に努め、体験学習も出来るように検討したい。水以外の他業種は、進出する計画はない。

経済効果は

地区と協調しながら地元とサントリーがお互いに経済効果上がるようにし、町の活性化が進むようにしたい。

協定書の今後の取り交わしは

工場進出の協定書は、基本的な内容です。公害、環境、町が買収後の土地売り渡し契約等、今後多くの協定がされます。



サントリー(株)進出予定地 (笠原)

ひとこと



本四 福羅三千子

「開かれたまち づくりを」

この春に大学を卒業し、江府町に帰ってきました。江府町以外の土地での生活を体験した町について考えることができたと感じています。

誰もが言うように、都会にはない、自然の豊かさ、周囲の人たちとのふれあいなど、良い面も多く見えましたが、江府町について知らないことが多いことにも気が付きました。

特に町の行政については何も知らず勝手に生活してきました。江府町の過去や今後、抱える問題などについて何も知らないのです。町の出来事に興味を持たず、周り

の人たちと足並みを揃えているだけでした。

そのことを強く感じました。問題は、町の合併問題でした。問題意識を持ち、行動を起こしている人たちがいることを知り、今まで自分がいかに何も考えず、他人任せで生活していたのか、と考えさせられました。そして、もっと行政の行うことに関心を持つべきだと改めて感じました。

「難しいことは上にいる人たちがやってくれる、自分には関係がない」、と思っていました。が、これからの江府町を背負っていかねばならないのは、私たち若者です。

行政の取り組みは決して「関係のない」ことではなく、自分の生活に密着したものです。自分が暮らす町の環境づくりに無関心なままではいられません。地方の自立が求められている今、住民それぞれが自分の住む土地や環境に関心を持ち、主役となる必要があると考えます。そして、意見が積極的に聞き入れられ、話し合える、開かれたまちづくりを望んでいます。

江府町に若者の集まる場所、そして、若者の働く活気

「ふるさとで頑張る」



有限会社エルマノス 代表取締役社長 加藤 周二

事業を立ち上げる この江府町の町に設立。やはり私が望むことは、もっと若者がこの地に残り、そして何かが出来るといふことをもつともう努力していき

私加藤周二、江府町武庫53年生まれ26才。小学校時代よりこの町でソフトテニスで頑張り、全国大会へは、小・中・高と出場。そして大学へは京都へ行き、経済学部にて経済に対する勉強をする。卒業後Uターンし、江府町へもどり就職をする。さまざまな人との出会いがあり、政治に対することも少し学んだ気もします。そして法人営業を4年間し、新規事業を立ち上げひとつ成しとげること成功。そして、今、自動車業界へ入り、何年かすごしている内に自分で

と思う。今では、毎日のように米子方面、日南方面の若者、50代の方がぞくぞく来客をして頂いています。特に高校生も多く、いろんな今の悩みや相談事もよくさせられます。私も今までにそれなりにスポーツ勉強、多少の悪い事それぞれ経験してきました。そういった経験もあり、今は、皆から相談がふえてきています。

会社は、年中無休、新車、中古車販売、損害保険(各種)生命保険を取り扱っている為、夜中に車の事故をおこしたりするのでその対応もするからです。現在も多くの注文を頂き誠にありがたく思っています。

そしてなによりも、もっと江府町のよさを若者達に知ってもらいたいという願いとともに、活気があふれる町に私たちの年齢からがもつとしっかりとしていく姿を皆さまに知っていた、たくよう、より一層これからはがんばりますのでよろしくお願ひします。

あとがき

▼農作業(稲刈)も片付きほっと一息ついておられることでしょうか。今年の作はどうでしたでしょうか。

▼十月十八日から小学校統合問題と企業進出の実情を調査研究するため視察に行きました。(次号で詳細報告予定) そのついでに?横浜市で行われた全国女性消防隊操法大会の応援に行きました。

▼六ヶ月もの長い間、ご家族の方を始めまわりのいろいろな人に支えられ頑張りぬいた結果、全国で十一番目の優良賞に輝いてくれました。

▼彼女たちの活躍は記憶にも記録にも永久に残ることでしょう。本当にご苦労様でした。

▼これからは一雨一雨寒くなりますのでお体には気をつけてお過ごしください。

長岡邦一

議会広報調査特別委員会

- 委員長 池田成弘
- 副委員長 川上富夫
- 委員 田中幹啓
- 委員 日野尾優
- 委員 長岡邦一